

「市役所ひろば会議室」の実施状況について

1 現在開設中のテーマ

『インターネットを使ったコミュニケーションを考える～電子会議室ご意見箱～』

2 テーマの趣旨

電子会議室の現状と課題を示し、インターネットを活用した市民同士又は市民と行政のコミュニケーションについて、運営委員会委員と参加者との意見交換を行う。

3 実施期間

平成18年6月15日から平成19年3月31日まで

4 進行役

ウェブマックス株式会社

5 実施状況（8月20日現在）

参加者数 23名

発言数 106件

6 主なコメント

別紙のとおり

7 その他

ア コメント欄のリンク機能の改善

イ 『書込み練習用会議室』の開設

「電子会議室ご意見箱」での主なコメント

【不規則発言・事前チェックについて】

発言の掲載までにタイムラグが生じるので、スムーズな意見交換ができず、議論が活性化しない。

発言の事前チェックは、「市役所の都合の悪いことは掲載されないのでは」という不信感につながる。もっと市民を信頼するべきだ。

発言が適切か否かを参加者全体で考え、判断する運営方法に切り替えてはどうか。

【インターフェイスの問題】

画面が文字ばかりなので、長文の文章が多いと読むのを敬遠してしまいがちになる。

登録時に入力するプロフィールは見られないなら無意味だ。いつでも参照できる方がいい。

【匿名性について】

顔や背景が見えないと責任が曖昧になり真剣な会話につながらない。

実名かニックネームかを選べるのはいいが、テーマごとにニックネームを新たに登録できることに疑問を感じる。どのテーマでも同じニックネームであるべきだ。

登録時から匿名を希望することはできないか。登録内容の秘匿を完全に行うという事を前提として住所などの情報の提供を要求されているが危ない気がする。

【SNSについて】

今の電子会議室のシステムを捨てて新しくSNSに移行するというのも意外とベストな方法かもしれない。ただし、今まで以上のルールづくりなど、ソフト面の整備が必要だ。

SNSの定義もはっきりしていないところもある。ベターではあるがベストではないと思う。自治体の電子会議室はコミュニティとして発展させていくべきなのか、ヘルプデスク的に発展させていくべきなのか、それともまた違うのか、それ自体議論され尽くしていないという気がする。コミュニティであればSNSも有効だ。

SNSサイトを使用していて単純に嬉しいのは「自分が書いたコメントに返事が返ってくる」「画像を載せられて伝えやすい」「足あと機能などで、気になってつついそのサイトへ戻るような仕組みがある」などだ。

【機能の追加・変更】

知人などに参加してもらうことも重要だが、サイトの魅力的な仕掛けづくりで逃さないことも大事なのではないか。

枠の色を自分の好きな色に設定できる機能、ヒトやモノのアイコン（画像）を設定できる機能などがあれば、個性が少し出て顔が見えてくるように思う。

パスワードリマインダーなども使いやすさを向上させる機能のひとつだ。

気楽に立ち寄れる地域情報Q & Aのようなコーナーもあればいい。そこでの質問に参加者の誰かが知っていれば答えればいいと思う。

「初めて覗いたときに気軽に参加できる」というステップが必要。「掛け声機能」や「足あと機能」などがあれば、特に意見はなくても参加してみようかと思うのではないか。トップページに「ご意見求む」のコーナーを作成して、挙手機能を活用して意思表示できるようにすれば、ROM参加者が増加するのではないか。

【運営方法について】

市役所の担当の方が文句や苦情も受けたり、逆に市民に対して実情や活動などを話したり、市民と一緒に議論するという方がイメージしやすいのではないか。

期間や時間帯を限定して発言を求めて、チャットのように意見交換を行ってはどうか。SNSで「バトン」というものがある。参加者が楽しみながら紹介できるようなやり方が面白いのではないか。

すべての回答に市役所の担当するのではなく、答えられる人が答える、市民（参加者）が回答したらどうか。

何を議論するのがわかりにくい。

【議論の反映について】

会議室での議論がどこに反映されるのが疑問だ。

技術的に変えられないこと、予算上変えられないこと、運営方針上変えられないことなど、変わらなかったことについて後で理由の説明が欲しい。

意見がどのように反映されるかといった道筋が明らかでないといけない。

まず何かのポータルサイトの最初のページにこの会議室の入り口を設ければ結構関心と呼ぶと思う。地域の各種団体のポータルサイトを企画新設し、そこに入る前に必ずこの会議室を通らねばならないようにすれば、もっと参加者は増えるかもしれない。

【広報について】

電子会議室は口コミで広まっていくような性格のものではないと思う。参加者を増やすには広報活動だ。

知人・友人のご紹介で参加するところから始めた方がよさそうな気がする。SNSのように友人招待機能などもあったらいい。

参加者を増やすには、1) 電子会議室の存在を知る、2) 覗いてみて興味ある議論が展開されている、3) 発言したくなる、という流れが必要かと思う。やはり最初に「電子会議室の存在を知る」という最初の一步が必要だ。

【テーマ設定について】

期間を決めて建設的な意見を述べ合う会議室とは別に、テーマが限定されていない常時開かれている井戸端会議的な入口を設けておくと、参加者が増えるのでは。その中で盛り上がる話題や重要なことが出てきた場合は次の会議室のテーマとして取り上げてはどうか。

単なる井戸端会議であれば、参加する時間的余裕のある人しか発言しないのではないか。

m i x i はメニュー豊富なレストラン，メニューにないものも注文できる。しかし，この会議室は1品しかない置いてない定食屋という違いを感じる。3ヶ月～6ヶ月はメニューが変わらず，1品しか置かない頑固親父の定食屋という方針ではこれからも参加者は増えないと思う。

【その他】

会議室が市民の関心を呼んでいるかといえはそれは無いと思うが，話の内容を考えると「こんな物でしょう」と思う。私は何か京都市政で困ったことがあれば，まず地元の議員に相談に行く。行政に対する提案なんてやっても無意味だと思っている人は結構多いのではないか。

インターネットはあくまでも道具。いくら機能が多くても，いくら見場が良くても使われないと意味がない。また，使い方を間違えば凶器にもなるものだ。